



平成 19 年 10 月 18 日

各 位

神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目 5 番 14 号
株式会社メディネット
代表取締役 CEO 木村佳司
(コード番号:2370 東証マザーズ)
問い合わせ先 経営企画部長 鈴木邦彦
電話番号 045(478)0041(代表)

メディネット、東京大学と結腸・直腸がんの肺転移に対する新たな治療法の確立に向けて ガンマ・デルタ T 細胞療法を用いた共同臨床研究を開始

株式会社メディネットは、平成 19 年 10 月 18 日、国立大学法人東京大学(東京都文京区、総長:小宮山 宏)と共同で臨床研究を開始しましたのでお知らせします。本共同臨床研究は、結腸・直腸がんが肺に転移した患者の転移巣切除後における、ガンマ・デルタ T 細胞療法ⁱの有効性と安全性を検討することを目的としており、東京大学大学院医学系研究科 臓器病態外科学講座 呼吸器外科 中島 淳 准教授の主導のもと、同研究科 免疫細胞治療学(メディネット)講座ⁱⁱ(垣見 和宏 客員准教授)との連携により実施されます。

本共同臨床研究により、本治療法の有効性、安全性が確認され、実地医療として提供されることになれば、結腸・直腸がん肺転移の患者様の治療選択肢が拡がるとともに、再発防止及び予後の改善に寄与するものと期待しております。

結腸・直腸がんの肺転移は、外科的切除が可能である場合が多く、転移性肺がんの外科手術例の内、結腸・直腸がんからの肺転移例が全体の約半数を占めています。しかしながら、切除可能な症例であっても、術後 5 年生存率は 30~60%程度であり、また、再発率も高くなっています。術後に化学療法剤を使用することも考えられていますが、結腸・直腸がんの肺転移に対してのエビデンスは得られておらず、治療成績を向上させるための有効な術後補助療法が求められています。

本共同臨床研究では、結腸・直腸がんの肺転移に対する術後療法としての、ガンマ・デルタ T 細胞療法の有効性および安全性を検討いたします。ガンマ・デルタ T 細胞療法は、化学療法や放射線療法と異なる作用機序により、QOL(Quality of Life:生活の質)を維持しながら、全身に広がる微小がんに対する抗腫瘍効果を期待できる治療法であり、外科療法と組み合わせることで、結腸・直腸がん肺転移の治癒的切除後における再発予防効果が期待でき、結腸・直腸がん肺転移に対する新たな治療法の確立に繋がると期待しております。

本共同臨床研究において、結腸・直腸がん肺転移に対する治療全般を臓器病態外科学講座 呼吸器外科が、ガンマ・デルタ T 細胞療法に係る治療を免疫細胞治療学(メディネット)講座が担当し、メディネットは同社が保有する技術、ノウハウ、各種基礎データを提供するとともに、治療結果から得られる

データを解析する役割を担っています。

尚、本件の業績に与える影響は軽微であります。

以 上

本件に関するお問い合わせ：

株式会社メディネット 広報グループ
神奈川県横浜市港北区新横浜 2-5-14
045-478-0041(代表)

i **ガンマ・デルタ T 細胞療法**

T細胞の中でも、特にガンマ・デルタ T 型細胞を選択的に活性化、増殖して用いる活性化自己リンパ球療法。この細胞は、腫瘍細胞で発現している特定のマーカーをターゲットとして、腫瘍細胞を殺傷することが *in vitro* の実験で確認されている。生体内においても、効率よくがん細胞を殺傷する事が推定され、その治療効果が大いに期待される。

ii **免疫細胞治療学(メディネット)講座**

メディネットの寄附により、設置された寄附講座。基礎研究、臨床研究、さらには治療まで一貫して実施し、東大内の他の寄附講座、診療科等をはじめ、外部の医療機関、研究機関等と共同で、各種がんを対象とした免疫細胞療法の研究を行う。